

〔専門医による講話〕

- 1 テーマ 「メディアと子どもの脳の健康について」
- 2 対 象 5・6 年児童、教職員、保護者
- 3 専門医 池田 博行 医師
(池田小児科クリニック)
- 4 実施月 12 月
- 5 内 容(キーワード)
スマホが子どもにもたらす3つの弊害
子どもの脳と大人の脳の違い
上手に利用するルール作り



評価(あてはまるものに○をつけ、理由を記入)

①健康課題の解決について

(○)とても有効だった

()有効だった

()課題が残った

<その理由>

*スマホの便利性やゲームの弊害などを具体的に提示し、有害性はもちろん今の生活を変える必要性を切実に理解させることに大いに効果があった。

②保健教育における校内連携について

(○)とても有効だった

()有効だった

()課題が残った

<その理由>

*5・6 年生の体育科「保健領域」を含む内容を年間計画に学校行事予定として掲示しているため、該当学年の先生方や校内の係分担など、専門医との日程調整や事前打ち合わせ等、ある程度見通しを持ちながら時間をかけて準備することが出来るようになっている。

③校外の関係機関等との連携について(派遣専門医を含む)

(○)とても有効だった

()有効だった

()課題が残った

<その理由>

*実際に診療クリニックで、子どもの話や診察に関わっている医師の講話内容は、リアルで最新の診察現場の事実に基づいており、専門的な知識や診察の場でのやり取りや課題は、非常に迫力満点で説得力があった。

〔受講者の感想など〕

- 自分はスマホを2時間以上見ているから控えようと思ったし、弟も2時間以上見ているから、聞いたことを話してみようと思った。これからはメディアを考えながら生活し、体を大切にしようと思った。
- 私はスマホやタブレットを見過ぎると、スマホが無かったら不安になるなど良いことはないということが改めてわかった。それに大人と子どもとでは、平等にはいけないんだと思った。



〔教科やその他の指導との関連性〕

- 体育科「保健領域」の「生活習慣と健康」でコンピューターや情報ネットワークなどを長時間使用することによる疲労の現れ方や休息の取り方など健康との関りについて取り上げることが明記されていることから関連を図り、年間の保健指導計画に基づき実施した。